

第2 問題作成部会の見解

1 問題作成の方針

「韓国語」は、平成14年に大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の外国語科目として加えられて今回で第4回目である。高等学校学習指導要領ではいまだに「その他の外国語」として扱われ、目標及び内容についての具体的な記述がない状態が続いている。そのため、平成16年度の出題はこれまでどおり「ドイツ語」及び「フランス語」に関する高等学校学習指導要領の内容に準拠して出題することにした。なお、出題に際し、一応『国際文化フォーラム通信』などの情報を手掛かりにはしたが、現在の段階では高等学校における韓国語教育の実態について十分に把握しているとは言えない状況で行ったものであることを付け加えておく。

平成17年度の出題問題を作成するに当たっては、以下の点に留意しつつ行った。

- (1) これまでのセンター試験の試験内容に準拠する。
 - (2) 高等学校教科担当委員からの意見を最大限尊重する。
 - (3) 予想される平均点が、他の外国語科目との著しい不均衡が生じないように難易度を調整する。
- さらに具体的には次のような方針によることにした。

- (1) 音声・文字表記、文法・語い、会話、長文の四つの領域に分けて出題することにした。
- (2) 出題に際しては、日本の韓国語教育の現場で使用されている教材、また市販されている教材や辞書類を参考にした。
- (3) 表記法については、韓国教育部（現教育人的資源部）で定めた正書法及び韓国国立国語研究院の『標準国語大辞典』に基づいた。また延世大学校言語情報開発研究院の『延世韓国語辞典』をも参考にした。韓国と北朝鮮で違いが見られる部分については、原則として韓国の方式に準拠した。ただし、後者に準拠する教育を受けた受験者が著しい不利益を被らないように十分配慮した。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 韓国語のつづり字と発音に関する基本的知識を問う問題。つづり字と発音に関する問題は毎回出されており、それだけ韓国語学習にとっては重要なものである。中でも、激音化を含む同化、ㄹ挿入、濃音化、舌音化などの現象は頻繁に起こるものであるから、一般規則として定着させておく必要がある。

(1)A 音変化に関する問題

問1 2単語間における（接頭辞と語幹も含む）終声の初声化に関する問題である。

文字どおり の発音と誤った受験者がいたが正解は である。この種の現象は比較的接する機会が少なくないにもかかわらず、あまり詳細に説明されていないものである。しかし、学習上は極めて重要なものなのであり、個別的に学習しなければならない面があるが不可欠の学習事項である。なお、「맛없다」、「맛있다」の発音に関して言えば、前者は[마덜다]であり決して[마셋따]とは発音されない。一方、前者は[마덜다]と[마실다]の両方の発音が可能と言われる。しかし、[마실다]という発音は、맛と있다が直接結合した際の音変化ではない。これは、「맛이 있다」[마시읷다]の[ii]という連母音の一つが脱落したと考え

られるものである。また、「재미 있다」が[재민다]と発音されるのと軌を一にしている。
ちなみに、「맛이 없다」は[마시업다]と発音される。

問2 ㄴ挿入の問題と濃音化の問題である。基礎的な問題である。

問3 同化と濃音化の問題である。これも問2同様基礎的な問題と言えるものである。

(2) B 漢字音の異同を問う問題

問1 日本語で「ヒ」という音を持つ漢字「飛」、「非」、「否」の韓国語における漢字音の異同を問う問題である。「否」の発音が[부]となることを知らなかったせいだと思われる。

問2 日本語で「フク」という音を持つ漢字「福」、「復」、「副」の漢字音の異同を問う問題である。「復」の発音は「往復」などでは [왕복] となるが、復活や復興ではそれぞれ [부활]、[부흥]となることに注意。また「副」の発音は韓国語では終声のない [부]となる。

一般に韓国語の漢字音に関し、一つの漢字に一つの音と言う具合に単純に覚えている人がいるが、漢字によっては複数の音を持つものがあることに注意しておく必要がある。

問3 日本語で「ソク」という音を持つ漢字「速」、「息」、「測」の漢字音の異同を問う問題である。日本語の[s][z]などの歯音で始まる漢字音には韓国語の音が複雑な対応を見せるので注意する必要がある。

第2問 文法・語いについての知識を問う問題。出題に際しては、基本的な文法・語いの知識を問うとともに、学習者の間違いやすい点を取り上げた。学習に際しては、語いの意味・用法の正確な理解と日本語との表現の違いについて十分な配慮が必要であろう。なお、重要な文法事項については確実に習得しておく必要がある。

(1) A 用言の活用についての知識を問う問題。変則(変格)用言の活用形から辞書の見出し語を見つけ出す問題である。

問1 「이어서」の形は「있다」(ㄹ変則活用)の活用形である。正解は であるが、と間違えた受験者がかなりいた。

問2 連体形부러울から「부럽다」を見つけ出す問題である。正解は であるがほとんどの受験者が正解を答えた。

(2) B 与えられた単語(変則活用)の活用形を問う問題である。

問1 「담그다」はㄹ変則用言で、その第 語基(連用形)は「담가」である。

またこの動詞は「キムチなどの漬物を漬ける」の意味でしか普通接することのない単語だが覚えておいていいものである。

問2 「고르다」はㄹ変則用言で、その第 語基(連用形)は「골라」である。これは易しかったせいか正答率が高かった。

(3) C 語い及び表現を問う問題。

問1 「起点を表す助詞」を選ぶ問題である。「国民から信頼を得る」のような場合は (으)로부터を使用。

問2 「～がお嫌いですか？」に相当する表現を選ばせる問題。日本語の「～が好きだ」「～が嫌いだ」に相当する韓国語は「좋아하다 好く」「싫어하다 嫌う」のような他動詞を使用するのが普通であるから格助詞は「を」取る必要がある。正解は であるが、日本語に引かれて と答えた受験者がいた。

- 問3 「結果がこんな風に出るなんて誰が想像できたろうか」という反語的な表現で、「야」という強調を表す助詞の使い方を問う問題だが、思ったよりも正答率が高かった。
- 問4 「면서」の「伝聞したことを相手に確認することを表す」用法を問う問題。
- 問5 「機会を逃す」に相当する連句を答えさせる問題。「놓치다」が正解である。
- 問6 「下線を引く」に相当する連句を答えさせる問題。「긋다」の活用形가가正解。参考までに「マッチをする」場合にもこの動詞を使う。

(4)D 類似の意味を有する語を選択する問題。

- 問1 言葉や態度が不自然だということから「ぎごちない」という意味의 어색하다가正解。
- 問2 主に料理に関する動詞の中から正しいものを選択させるものである。굽다は「焼く」、볶다は「炒める」、말다は「お湯やスープの中にご飯や麺を入れて混ぜる」という意味で、「卵をゆでる」場合の動詞は 삶다 である。

(5)E 与えられた韓国語の語句や表現に最も近い意味のものを選択させる問題である。

- 問1 「뜻밖애」は 의외로「意外に」という漢字語に相当する固有語である。これに近い表現はこの中에서는 우연히「偶然に」である。
- 問2 「여간 ~」(否定表現)はちょうど日本語の「並大抵の~ではない」という表現に相当し、表現自体は否定表現になっているものの意味の上では肯定になり強調を表している。
- 問3 本来副詞である「그만」の特別の用法である。「그만이다」は「それっきりだ」という意味でも使用されるが、これが「それ以上はない」という意味で「最高だ」として使用されたものである。
- 問4 日本語の「~せざるを得ない(~しないわけにはいかない)」に相当する表現を問う問題である。表現は二重否定になっていて強調の意味になるものである。

(6)F 与えられた日本語の意味を韓国語で表現する問題。

- 問1 「理解できる」に対して韓国語では「納得がいく」と同様「이해가 가다」という表現を知っているかどうかを問う問題である。
- 問2 「まったく気にならない」に相当する韓国語を選択させる問題であるが、 는「気持ち落ち着く」、는「気にかかる」、는「どうしようもない」という意味であるから、正解는 の「아무렇지 않다」「なんでもない、平気だ」である。

(7)G 韓国語の語句や表現に相当する日本語を選択させる問題。

- 問1 「어깨너머로」は「肩越しに」という意味から「見よう見まねで」という意味に使われるものである。
- 問2 「年を取ると、楽な着物がいいんだよね」という意味になる、「니까」の「後に続く状況の前置きを表す」用法を問う問題。

第3問 日常生活によく現れるような対話文を材料に、対話の流れにそって素直に読んでいけば自然に対話が完成するように作成してある。これによって基礎的な語い力、与えられた状況の中で適切な表現は何であるか、対話文の一つ一つを正確に読み取っているかということと同時に、全体の対話の流れを理解しているかを問うようにしてある。なお、難易度を少し上げた

め、会話文を最低一往復半になるように作成してある。

(1)A 短い対話を材料とし、対話の流れが理解できるかどうかを問う問題。

問1 「音を低くしてください」と「隣の部屋で子供が寝ているんです」という受け答えから「うるさい」を導くごく初歩的な問題である。ほとんどの人ができていた。

問2 「昨日無くした車の鍵見つけた?」「困ったね。よく探してごらん。」という受け答えから「いくら探してもないんです」を導く問題。「찾다」という動詞は達成動詞であり、「探す」という意味であるが「発見する」までも含んでいることを知っていればそれほど難しくはないと思われる。

問3 後に続く「そうですか。じゃあ、後でまた来ますから」が分かれば、「約束があって出掛けようとしていたところだったんです」が自然に導かれるであろう。

問4 後に続く「ピピンパと冷麺ください」という表現から食堂での対話だということが分かるが、その前の「はい、お客さん」という応対から店の人に対する呼びかけの表現であることが分かる。ちょうど日本語の「すみません」に相当する表現を探せばよいわけである。この中では がそれに相当する。 は「申し訳ない」の意味の「すみません」であり、この場面では使用しない。

問5 日本語の「借りてくれる?」に相当する表現を問う問題。「借りる」は「빌리다」、「貸す」は「빌려주다」、「(他の人から)借りてやる」は「빌려다주다」である。

問6 後に続く「なんとなくふらっと行ったら、いらっしゃらなかった」という表現から、「전화를 미리 드리고 갈걸 그랬어」「前もって電話してから行けばよかったのに」を求める問題である。「~르 걸 그랬다」 という表現は知っておくべき。 は「先生に電話をしなければよかったみたい」の意味になるので不正解。

問7 名詞句や副詞句について丁寧な言い方をする語尾요に関する問題である。この場合は相手の言った휴가「休暇」という言葉を確認するためにおうむ返しに聞き返した表現である。こういう場合は 요という語尾を付ける。

(2)B 3往復からなる比較的長めの対話を材料に文脈の理解を問う問題で、道を尋ねるという内容で受験者にとっては取り組みやすい問題と言えるだろう。

問1 後に続く「初めて来たところなのでどこがどこか分からない」という表現から「ソウル会館」がどこにあるかを聞いていることが推測できる。

問2 「모셔다 드리다」「ご案内する」という表現が分かるかどうかポイントだが、後に続く「すまないね」という表現から「気をつけていらっしゃい」はおかしいことが分かり、また の「つれて来させます」も誤答であることが推測できるだろう。

(3)C これも上のB同様文脈の理解を問う問題である。友達への誕生プレゼントに関する内容である。これも受験者にとっては比較的取り組みやすい問題だと言えよう。

問1 後に続く「プレゼントを買ったらお金があまり残らない」と「じゃあ、アイスクリームぐらいだったらいいでしょう」という内容から、 が正答であることが推測できる。

問2 正答は の「文句は言いつこなしたよ」で、表現としては難しいものだが誤答を消去していけば求められるはずである。

第4問 ある程度の長さの平易な文章を読ませ、書き言葉の表現の理解と論理的な文章展開の理

解能力を測ることを目的にしたものである。課題文は、インターネット文化の持つ功罪について扱ったエッセイで、一般的で親しみやすい内容だと思われる。なお第4問の得点率は約9割でかなり高かった。

問1 「아닌 게 아니라」という副詞表現が、その前にある文の内容に思い当たる節があった場合に使用される表現で、日本語の「そう言えば」に最も近いことが分かる。本文に即して言えば、「インターネットが普及して新聞・雑誌を読む人が少なくなっただけ」という内容に対し、自分の生活においても「(そう言えば)コンピュータを通してニュースが見られるので新聞を買って読まなくなった」ことに思い当たったわけである。なお、正答率は約8割であった。

問2 「時間の節約、種々の情報が得られる」というプラス面を「一石二鳥」という表現で表し、一方で、「目が悪くなる、健康を害する」などのマイナス面もあることに触れていることが分かれば、「一長一短」という四字漢語が自然に選ばれることになる。

問3 後に続く「お互いうまく調和を取り合っていく知恵が必要だ」という表現から「機械の奴隷にならないようにしながら」が正解になる。

問4 全体的な内容の理解を見る問題。正答率はかなり高かった。

第5問 ある家庭の日常的な出来事を題材としたエッセイである。日常的な表現の理解と全体的な内容理解を測ることを目的としている。

問1 文脈から判断して適語を入れる問題。「屋根裏部屋にあって、がらくたを紙で包んで入れられるもので、上に名前が書いて置かれているもの」とあれば、の「箱」ということが分かるであろう。ちなみに は「倉庫」である。

問2 文脈から判断して適当な文を入れる問題で、前後関係から容易に推測できるものである。

問3 は하다をつけて形容詞になるが、の열심(熱心)という語は하다をつけることができない。韓国語の用言には漢語の場合、하다 を付けて動詞・形容詞を作るのが一般的であるが、漢語を含め、名詞に이다が付いた形で属性を表すものもある。例えば 무리(無理)이다、실례(失礼)이다、걱정이다(心配だ)などである。一方、무리하다、실례하다という形があり、前者は動詞、形容詞「無理する・無理だ」として、後者は動詞「失礼する」として使用される。この点日本語と類似点もあるので注意する必要がある。

問4 文脈から判断して適語を入れる問題。後に続く部分に「(我々の眼にはがらくたに思えるようなものに)一生懸命手を触れながらあんなにも満足そうな顔をしていた」となっていることから正解が の「それで」であることが判断される。

問5 全体的な内容の理解を問う問題。正解は とである。 は原文 82 ページの下から 8~7行目の「내가 아버지의 기분을 조금이나마 알게 된 건 대학 진학 때문에 집을 떠나야 했을 때였다」の部分に相当する。 は原文 83 ページ 8~10行目の「아버지는 언제나 우리들을 따뜻한 눈으로 지켜보고 계셨던 것이다. 처음 집을 떠나면서 조금 불안하고 쓸쓸했던 내게 아버지의 사랑은 커다란 힘이 되었다」に相当する。

3 今後の課題

今回（4回目）の受験者は213名であった。初回からの受験者数の推移を確認してみると、初回99名、2回目169名、3回目174名に比べて今回200名を越すに至り少しずつではあるが増加していることが分かる。一方、平均点は158.13で昨年度の153.64と比べて5点ほど上がっている。しかし、受験者の大多数が民族学校出身者及び韓国からの帰国生であるということを考慮すれば、まあ妥当な線ではなかったかと思われる。このように平均点が上がったことをもって、出題された問題の難易度が下がっていると単純に判断できないところに韓国語特有の問題があると言えよう。

さて、これまで試験問題評価委員会、問題作成部会によっていろいろと問題点が指摘されてきたが、なかでも重要な問題は次の2点である。

高等学校における韓国語教育が、ほとんどの場合6単位前後の学習時間しか確保しておらず、センター試験の難易度の水準に達していないこと。

問題作成を担当する人材が不足していること

これらの問題は問題として指摘されながらも依然として続いており、しかも簡単に解決できる問題ではない。これらの問題の解決については、中・長期的な展望として念頭においておく必要はあるが、当座我々はこのようなねじれ現象の中にあっても良質の問題を毎年作成していかなければならないという使命があるということを銘記すべきであろう。

そこで、問題作成部会として次のことを提案したい。

- (1) 出題形式、配点などに対する見直しの必要性。平成11年3月に告示された高等学校学習指導要領に基づいて実施する、平成18年度からの大学入試センター試験が、大きく変更されることになっている。高等学校側から、過去4年間ほぼ同じ出題形式をとってきたことに対し好ましくないと指摘もあり、そろそろ出題形式、配点などに対する見直しをする時期に入っていると思われる。
- (2) 高等学校における学習範囲（12単位程度）を想定し、それから大きく逸脱しない問題の作成に努力すること。高等学校側では、12単位程度の学習の到達目標をハングル能力検定試験の3級～準2級に置いていると思われるから、それを目安に問題を作成するよう努力すべきであろう。そして、それで平均点が一時的に高くなったとしても現段階ではやむを得ないのであり、平均点を下げるためだけのために難易度を極端に上げることは現段階では適当ではないように思われる。特に長文の問題では、語いは難しいものはなるべく避けてじっくりと読み込むことによって内容を把握するような問題の作成に努力すべきだと思われる。そして、そのことが日本における韓国語学習を充実させる動機付けにもなり、受験者を増やすことにもつながるのではないかと考えられる。
- (3) 高等学校における韓国語教育の実態調査の必要性。高等学校側からの報告書で毎回のように、実際の教育現場における韓国語教育の実態調査をしてほしい旨の要望が出されている。高等学校の現場で、前述のねじれ現象の中においてどのように韓国語教育に取り組んでいるかを実際に目にするには必要だと思われる。高等学校側の実情を把握しておくことは、問題作成部会と高等学校側との意識の乖離を引き起こさないためにも是非実施すべきだと思われる。このことを特に大学入試センター側に強く要望しておきたい。